



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

シンガポールの政策 文化・芸術編

2021年8月

一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

目 次



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

1. 文化芸術政策の遷移と現況
2. 行政組織
3. 文化芸術教育
4. 文化芸術事例

(1) 遷移

1965年	8月9日マレーシアから分離独立、シンガポール共和国が誕生
1989年	文化芸術評議会 (Advisory Council on Culture and the Arts (ACCA)) 設立。初の長期計画「文化芸術評議会報告書 (Report of Advisory Council on Culture and the Arts)」発表
1991年	芸術評議会 (National Arts Council(NAC)) 設立
1993年	国家遺産局 (National Heritage Board (NHB)) 設立
2000年	「ルネッサンスシティプラン1(Renaissance City Plan 1)」発表
2005年	「ルネッサンスシティプラン2(Renaissance City Plan 2)」発表
2008年	「ルネッサンスシティプラン3(Renaissance City Plan 3)」発表
2012年	「アート&カルチャー・ストラテジック・レビュー2012 (Arts and Culture Strategic Review 2012(ACSR))」発表
2018年	NACが「Our SG Arts Plan (2018-2022)」を発表

1. 文化芸術政策の遷移と現況



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 遷移と現況 (1996年、2005年、2015年、2019年の比較)

指標	1996年	2005年	2015年	2019年
公演と展覧会の開催日数	6,000日	19,000日	26,000日	26,000日
有料公演への入場者数	75万人	126万人	195万人	199万人
無料公演への入場者数	— (※1)	221万人	278万人	372万人
経済効果 (レートは当時)	S\$5億6千万 (約431億円)	S\$9億7千万 (約640億円)	S\$17億2千万 (約1,500億円)	S\$18億2千万 (約1,490億円) (※2)
芸術関係企業や組織の数	400社	650社	6,200社 (※3)	4,100社
従業者数 (文化芸術業界)	16,000人	21,000人	27,000人	26,000人

※1 統計が開始された2003年の入場者数は99万人

出典:Singapore Cultural Statistics(NAC)

※2 2020年版の最新の報告書で2019年分未集計のため、経済効果のみ2018年の数値。

※3 カウントする企業の定義が過去と異なる (メディア系企業も含む等) ため数字が激増している

(3) 現在の長期計画

Arts and Culture Strategic Review 2012 (ACSR)

○2012年発表。2025年までの長期計画。

【目標】

「文化的で気品のある人々の国であり、伝統を大切にし、シンガポール人としてのアイデンティティに誇りを持つ国家となること」

(従前のプラン)

**国家構築
経済発展**

- ・ 経済的側面からの文化振興

(ACSR)

**文化による人づくり
アイデンティティ形成**

- ・ パブリックコメントの活用
- ・ 人材育成の対象の拡大
(アマチュアも含む)
- ・ 文化芸術をアクセスしやすいものへ

継続しながら次のステップへ

Arts and Culture Strategic Review 2012 (ACSR)

【戦略と提言】

大戦略	小戦略と提言
①いつでも、どこでも、誰にでも、 文化芸術を提供	1)新しい“層”の獲得 2)生涯関われる仕組みづくり 3)国家ムーブメントの喚起
②優れたパフォーマンスを 達成する能力の育成	4)文化的施設、企業、芸術作品の発展 5)才能を伸ばしプロ育成を支援 6)より高いパフォーマンスを目指した 仲間との協力



Our SG Arts Plan (2018–2022) (NAC)

【方針と戦略】

方針	戦略
①人々をインスパイアする	1)NACの役割の更なる強化
	2)観衆の更なる獲得
	3)アート部門の多様な能力の育成
②コミュニティをつなげる	4)フリーランスの芸術家の支援
	5)テクノロジーの活用
	6)芸術研究の強化
③グローバルな立場の確立	7)アートの社会への影響力の強化
	8)海外展開



(4) コロナ禍における文化芸術分野への政府の支援策

2020/1/23 2/1	シンガポール国内初の新型コロナウイルス感染を発表 入国規制の開始
3/6	文化芸術分野への <u>S\$160万の支援金支給</u> を発表
3/13 3/26	250人以上のイベント等の延期・中止を勧告 集まりを10人以下に制限、全てのイベント等の延期・中止
3/26	Arts and Culture Resilience Package : ACRP (芸術文化復興支援パッケージ) として <u>S\$5,500万の支援</u> を発表 ※ <u>S\$480億の2021年度補正予算 (レジリエンス予算)</u> の一部
4/7 6/19 12/28	生活に必要不可欠なサービス以外のほぼ全ての職場を閉鎖、 店内飲食禁止、同居家族以外との接触は原則禁止 店内飲食再開、5人以下の集まりを許可 8人以下の集まりを許可
2021/3/8	ACRP (芸術文化復興支援パッケージ) <u>S\$2,000万の追加支援</u> を発表 ※同支援パッケージは <u>総額S\$7,500万</u>
5/16	再び店内飲食禁止、集まりを2人以下に制限
5/28	文化芸術関係者の生活を保護するための詳細措置の実施を発表 ・運営費補助 ・賃貸料軽減 ・会場使用料補助 ・組織変革助成金 ・自営業者助成金 ・復旧補助金

(参考) 表現の自由と制限について

○シンガポール共和国憲法

- ・ 言論と表現の自由は保証される
- ・ 但し、立法によって制限可能
- ・ 実質的にはほとんど自由は保障されていない

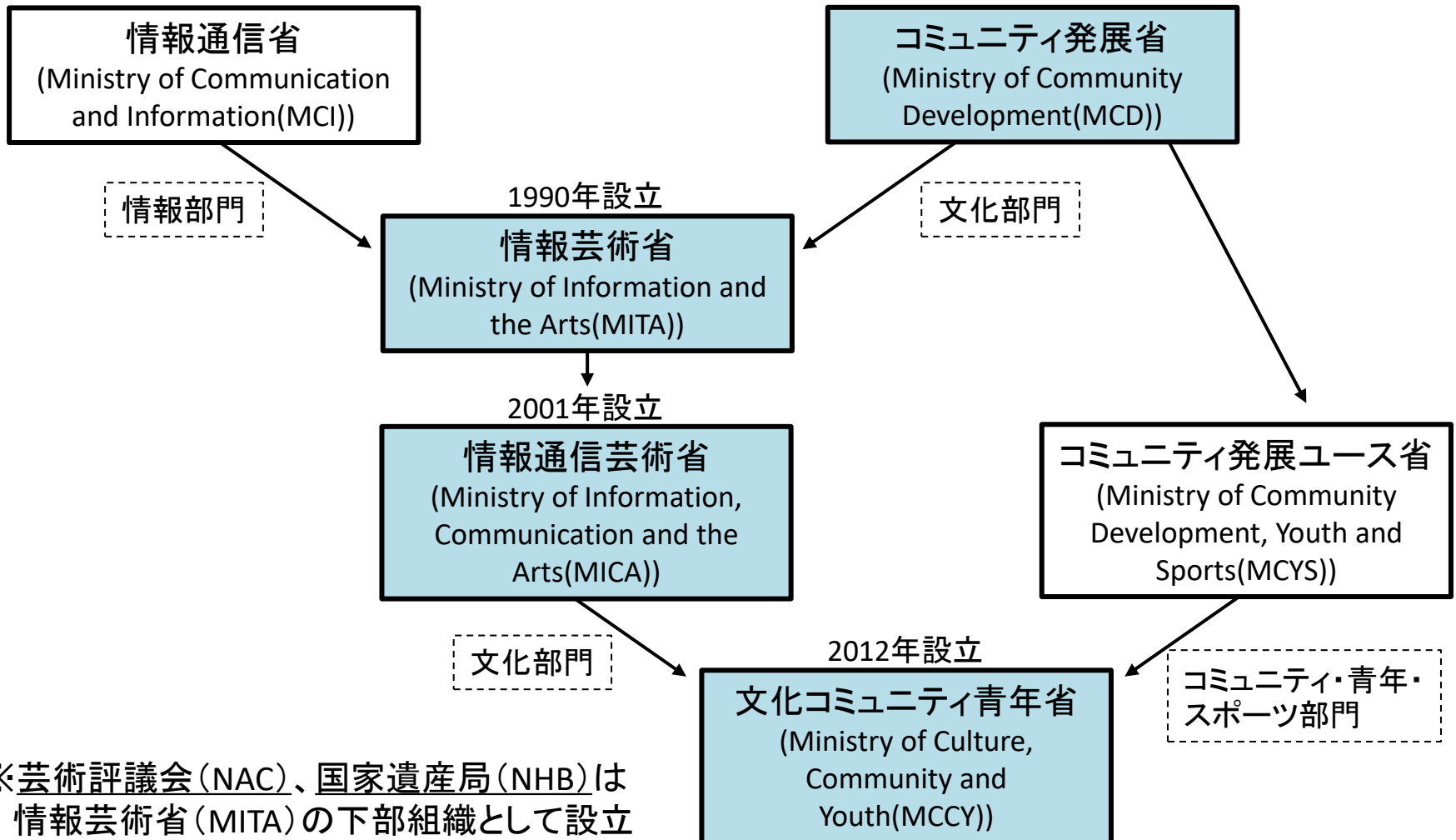
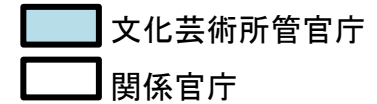
○世界報道自由度ランキング

- ・ 2021年はシンガポール160位 (180カ国・地域のうち)
- ・ 報道の自由度も低く、特定の表現は自由にできない

2. 行政組織



(1) 組織変遷



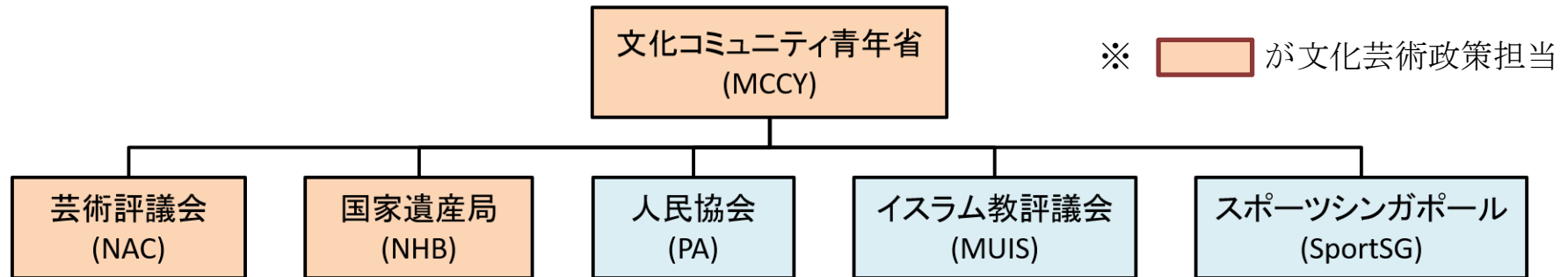
※芸術評議会(NAC)、国家遺産局(NHB)は
情報芸術省(MITA)の下部組織として設立

2. 行政組織



(2) 文化コミュニティ青年省

(Ministry of Culture, Community and Youth (MCCY))



【省の設置目的】

- 文化やスポーツを通して、自己形成や国家帰属意識を深め、また若者のボランティアや社会奉仕活動への参加を促し、親切で思いやりのある社会をつくる

【文化芸術政策】

○所管

芸術評議会 (NAC) と国家遺産局 (NHB)

○ミッション

信頼・絆などの社会の連帯感の構築、シンガポール精神の刺激、故郷の構築

○ビジョン

シンガポールを、充実した意欲的な国民、団結力と思いやりのある社会、自信に満ちた強靱な国家、そして我々が故郷と呼ぶ場所にする

- 文化芸術予算：2021年度S\$22.7億（約1,816億円）※全体予算の2%程度

(3) 芸術評議会 (National Arts Council (NAC))

- 1989年の長期計画「文化芸術評議会報告書」に基づき、1991年に設立
- シンガポールの文化・芸術の振興政策を担う
- ミッション
私たちの生活に不可欠なものとして、芸術の創造と鑑賞を支持すること
- ビジョン
人々に刺激を与え、地域社会をつなぎ、シンガポールをグローバルに位置付ける多様で特徴的な芸術の拠点となる
- 主な政策
 - ・アーティストに対する助成金の交付
 - ・NACの施設の利用提供
 - ・アートハウジング事業



(4) 国家遺産局 (National Heritage Board (NHB))

○1989年の長期計画「文化芸術評議会報告書」
に基づき、1993年に設立

○シンガポールの遺産を管理。
国内の美術館、博物館などを運営。

○ミッション
共有の遺産を保存し祝福する

○ビジョン
過去に誇りを持ち、未来へ遺産を残す

○所管施設
アジア文明博物館/インドヘリテージセンター
マレーヘリテージセンター/シンガポール国立博物館/プラナカン美術館
切手博物館/孫中山南洋記念館/ブキ・チャンドゥウ回想館



3. 文化芸術教育



(1) 中等教育～前高等教育



○School of the Arts (SOTA) (MCCYが運営)

シンガポール初の芸術専門中等教育機関 (2008年設立)

対象	13歳～18歳
人数	一学年200人、全校1,200人
入学試験	芸術に関する試験、初等学校修了試験(PSLE)
卒業資格	国際バカロレアディプロマ
カリキュラム	学術分野+芸術分野+情緒分野

○学費 (月間) 1年目から4年目 (S \$ 1=80円で計算)

シンガポール国民	シンガポール永住権者	外国人(ASEAN)	外国人(ASEAN以外)
S\$350 (約2万8千円)	S\$695 (約5万5千円)	S\$2,200 (約17万6千円)	S\$2,750 (約22万円)

出典: SOTA公式HP

3. 文化芸術教育



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 高等教育



南洋美術専科学院
(Nanyang Academy of Fine Arts)



ラサール芸術学校
(LaSalle college of the Arts)



シンガポール国立大学 (NUS)
(Yong Siew Toh Conservatory of Music)



南洋工科大学 (NTU)
(School of Art Design and Media)

4. 文化芸術事例



(1) 日本とシンガポールの文化芸術施設の比較

	日本	シンガポール
運営方法	国立（独立行政法人） 県立や市立（自治体） 私立（個人、企業）	国立（国家遺産局(NHB)ほか） 私立（個人、企業）
価格設定 （区分の一例）	・一般/大学生 ・個人/団体 ※高校生以下、65歳以上、心身に障害のある者は無料の施設が多い	・シンガポール国籍保有者や永住者/それ以外 ・一般/中学生以下や60歳以上、心身に障害のある者 ※シンガポール国籍保有者や学生、教師は無料の施設もある
価格帯 一般価格 （常設展示）	500円～1,300円程度	S\$6～S\$20程度 （約500円～1,700円）
展示方法	【鑑賞型展示に重点】 ・一部携帯電話の使用や私語、模写等が禁止されている	【体験型展示に重点】 ・デジタルオーディオ（説明ガイド）取得に携帯電話の活用も ・子供への教育を意識した内容

(2) 施設例

① シンガポール国立博物館 (National Museum of Singapore)

1887年にオープンしたシンガポール最古で最大規模の博物館。
シンガポールの歴史やシンガポールのライフスタイルを学ぶことが出来る。

○博物館としての特徴

- ・歴史に重点が置かれており、13世紀から現在までを4つの時代に区切って展示
- ・日本統治下の「昭南島時代」についても、詳しく触れられている
- ・イギリス植民地時代の動植物の記録「William Farquhar Collection」を展示
→これを題材にチームラボ (※) が常設展を開始 (2016年～)
- ・「Singapore Night Festival」などのアートイベントの会場に

※チームラボ：東京に本社のあるデジタルコンテンツ制作会社



Story of the Forestの様子 出典：teamLab公式HP

(2) 施設例

② ナショナルギャラリーシンガポール (National Gallery Singapore)

2015年に旧市庁舎や旧裁判所を改築して作られた世界最大級の美術館。
シンガポールを始め、珍しい東南アジアの現代美術を中心に集められている。

○美術館としての特徴

- ・ 歴史的保存建造物の活用
- ・ 海外の美術館とパートナーシップ締結
- ・ 子供のためのイベント・プログラム
- ・ 展示以外でも楽しめる場所
- ・ 多くのアートイベントの会場

○展示内容

- ・ 草間彌生展 (2017年)
- ・ チームラボ (2017、2018年)



4. 文化芸術事例



(2) 施設例

③ シンガポール美術館 (Singapore Art Museum)

1996年にオープンした
シンガポール初の美術館。
ミッションスクールを改築して作られ、
東南アジアの絵画や彫刻などの
現代美術が集まる。

- シンガポールビエンナーレを主催
- 現在改修工事中で2023年再開予定



④ アートサイエンスミュージアム (Art Science Museum)

2011年にオープンした
蓮の形が特徴的な美術館。
マリーナベイサンズが運営。

- チームラボの常設展示
- 国際巡回展示の開催
- 科学的展覧会の開催



4. 文化芸術事例



(2) 施設例

⑤ エスプラネードシアター (Esplanade Theater)

2002年にオープンした総合芸術文化施設。
2つのコンサートホールとシアターを
中心に多様な公演が行われている。

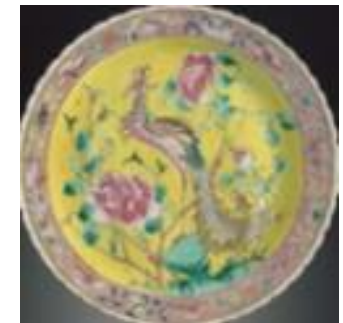
- アマチュアへの公演機会の提供
- 無料で楽しめるイベントの開催
- 2022年開業に向けて新ホールを建設



⑥ プラナカン博物館 (Peranakan Museum)

シンガポールならではのプラナカン
(東南アジアの女性と結婚した外国貿易
商人の子孫) 文化に関する博物館。
宝飾品、家具、食器、工芸品 (刺繍品)
などが展示されている。

- 現在改修工事中で2021年中頃に再開予定
(再開時期は延期の可能性が高い)



出典: Peranakan Museum 公式HP

4. 文化芸術事例



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(2) 施設例

⑦ アートハウス (The Arts House at the Old Parliament)

旧国会議事堂を改装して作られたアートスペース

○シンガポール・ライターズフェスティバルのメイン会場

⑧ ギルマンバラックス (Gillman Barracks)

世界各国のギャラリーを誘致し集積させたアート地区

○シンガポール経済開発庁 (EDB)、芸術評議会 (NAC)、
JTCコーポレーション(商業地区開発管理法定機関) が共同開発

○10のギャラリーが入居 (うち日本のギャラリーは2つ)



アートハウス



ギルマンバラックス

4. 文化芸術事例



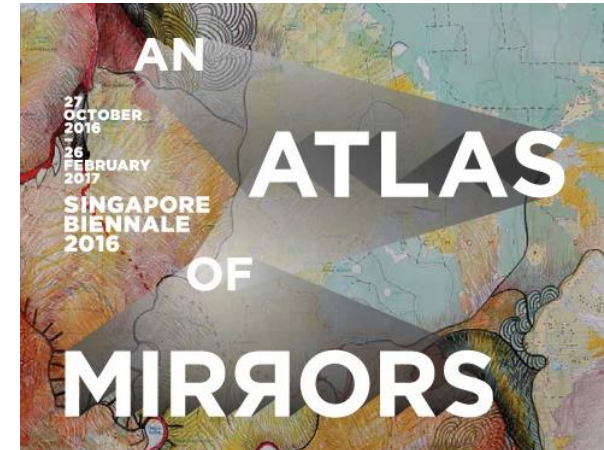
The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

(3) イベント

① シンガポールビエンナーレ (Singapore Biennale)

2006年から開始した東南アジア現代美術展示会<2年に1回開催>

- シンガポール美術館が主催
- 第6回目2019年11月～2020年3月
- 日本人アーティストの作品も展示



② シンガポール・ライターズフェスティバル (Singapore Writers Festival)

1986年から開始した国際的な文学イベント<2011年から毎年開催>

- 第23回目2020年10月30日～11月8日
- シンガポールや世界各国から作家や出版社が参加し、作品を紹介
- 日本人作家の青山剛晶氏 (名探偵コナン) 綿矢りさ氏 (蹴りたい背中) も過去参加



4. 文化芸術事例

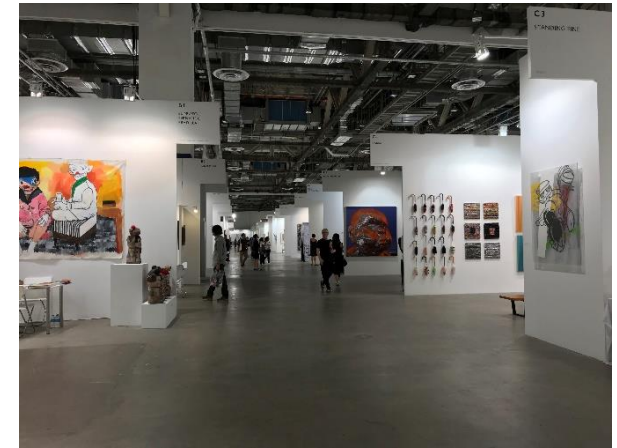


(3) イベント

③ アートステージ・シンガポール (Art Stage Singapore)

アジア最大級の美術展覧会

- マリーナベイサンズで開催
- 世界中からギャラリーが出展も近年縮小
- 2019年1月、2020年11月と2年続けて中止



④ シンガポールアートウィーク (Singapore Art Week)

シンガポール最大の芸術イベント

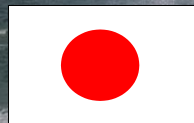
- 文化芸術施設、街中、個人宅などでも開催
- 第9回目2021年1月
- プロジェクションマッピングの人気の高い



出典: Time Out HP

～ ご清聴ありがとうございました ～

E N D



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore